

ENERGY NEWSLETTER

<季刊誌>

工エネルギー—通信



2019.8.20

VOL.1

目次

(ページ番号)

1 各種市況サマリー(2019年4月以降)

①原油	1
②LNG	2
③LPガス(プロパン)	4
④ガソリン	5
⑤電力	8
⑥石炭	10

2 エネルギー・アウトック

2019年後半～2020年初頭の原油価格見通し ～中東情勢緊迫化と需要減退懸念 強弱要因が拮抗～	11
---	----

3 アジア各国の製油所稼働状況

25

4 各種貿易統計

①原油	28
②LNG	30
③LPG	32
④ガソリン	34
⑤石炭	36

5 国内エネルギー事業

①石油事業	
最新動向	38
政策から見た石油事業動向	55
②電気事業	
最新動向	57
政策から見た電気事業動向	62
③ガス事業	
最新動向	77
政策から見たガス事業動向	82

6 エネルギー・フォーカス

～IMO硫黄規制への対応～	85
---------------	----

7 ニュースアーカイブ

92

1 各種市況サマリー(2019年4月以降)

①原油

2019年4月以降の原油動向

2019年年初来続いてきた上昇傾向が4月末まで維持された。米中貿易摩擦の緩和期待、石油輸出国機構(OPEC)の協調減産、イラン、ベネズエラの原油供給の減少観測、リビア政情不安、米国によるイラン原油禁輸の適用除外延長見送りと、強材料が目立った。

5月初旬には

2 エネルギー・アウトック

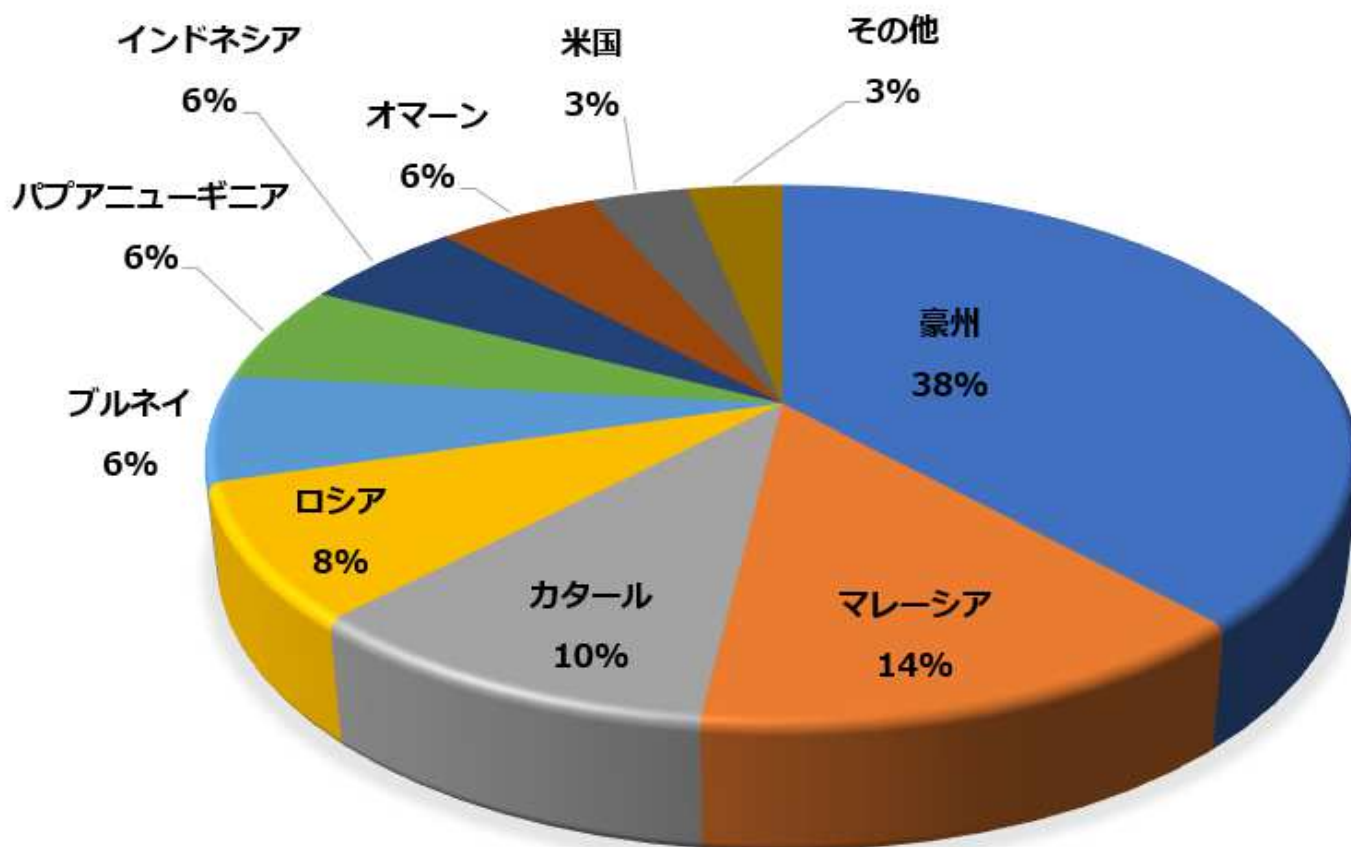
2019年後半～2020年初頭の原油価格見通し

～中東情勢緊迫化と需要減退懸念 強弱要因が拮抗～

原油市場では、イラン情勢の緊迫化と世界経済減速による石油需要の減退観測という強弱材料が拮抗。WTI原油は7月以降、1バレル=50～60ドルでの粗い値動きにある。トランプ米大統領が8月1日、3,000億ドル相当の中国製品に対し10%の追加関税を9月1日から課すと述べ、中国を「為替操作国」に認定したことで貿易戦争が再燃。エネルギー需要の後退観測が広がりWTIは53ドル台に下落した(グラフ1)。今後の原油市場をどうみるか。2019年後半～2020年初頭に向けての原油価格の動向を占ってみたい。

4 各種貿易統計

LNG国別輸入割合(2019年4～6月)



5 国内エネルギー事業

①石油事業

【キグナス石油がコスモ石油出荷地への変更を推進】

キグナス石油は2020年1月に予定しているコスモエネルギーHDとの資本提携に向け、出荷体制の見直しをさらに進めている。

【政策から見た電気事業動向】

非化石価値取引市場

エネルギー供給構造高度化法(高度化法)では、エネルギー供給事業者(小売電気事業者、一般送配電事業者、特定送配電事業者)のうち、特定エネルギー供給事業者(前年度の電気の供給量が5億kWh以上の事業者)は、自ら供給する電気の非化石電源の比率を2030年までに44%とすることが求められている。供給力における非化石価値を顕在化し、

③ガス事業

【ガス小売全面自由化の進捗状況】 スイッチング申込状況

2017年3月末～2019年6月末分の契約先切り替え(スイッチング)の申込件数は、全国で250万571件となった。2018年後半から関東におけるスイッチング件数が急速に増加し、近畿の件数を上回った。東京電力エナジーパートナーとニチガスが販売数を伸ばしたことが大きい。近畿では、関西電力が獲得件数を伸ばした。他方、北海道、東北、中国、四国では、スイッチングの実績が依然として無い。これらの地域では

6 エネルギー・フォーカス

～IMO硫黄規制への対応～

2020年1月1日より国際海事機関(IMO)の決定で、一般海域でも燃料油に含まれる硫黄分は上限が0.5%以下に制限される。このため、バンカー重油の使用に関しては、硫黄分0.5%以下の適合油か、スクラバーを搭載してのHSFOいずれかを選択することになる。創刊号では、IMO硫黄規制に取り組む日本の現況をまとめてみた。